長

千代田西部小学校

最終号

令和６年　３月　２２日

文責　校長　田中裕子

保護者・地域の皆様

本日をもって令和五年度が修了します。子ども達に、学年の修了証をお渡ししています。この一年間のがんばりを共に振り返っていただき、来年度に挑戦してみたいことを話し合う時間をもっていただけたらと思います。

地域の皆様には、朝の見守りや挨拶運動、読み聞かせ、スキルタイムのお世話等で、子ども達を温かく見守りくださり、有り難うございました。地域の方とのつながりは、子ども達に深い愛情を感じるものとなると思っています。

どうぞこれからも子ども達へのまなざしを注いでくださいますようお願いします。

四月から新年度。子ども達は、一つ学年が上がることになり、張り切っています。また、本校は二年後に創立百五十周年という節目の年を迎え、来年度はその準備期間となります。たくさんの方の思いが詰まった学び舎を、皆で祝福いたしましょう。

最後になりましたが、これからの皆様の益々の発展を願い、年度末の挨拶とさせていただきます。

職員一同

辞任式を行いました。本校からは、別紙の転出のご案内のとおり、3 名が退職、3 名が転出となりました。子ども達に深く関わってくださった先生方とのお別れに子ども達は、胸にくるものがあったのでしょう。お話を聞きながら涙を流す子がたくさんいました。

西部小学校が大好き、といつも言われていた先生方。本校での経験、思い出を胸に新しい職場で輝いて欲しいと思います。いつかどこかで見かけられたら気軽に声をかけてくださいませ。

私たちは西部小のみんなのことが大好きです！！！！

大変お世話になりました

教師生活３８年となりましたが、この３月を以て退職することとしました。西部小学校の保護者の皆様、地域の皆様には大変よくしていただき、教師としての喜びを数多く体験いたしました。

子ども達の成長を間近に見られたのが最大の喜びです。特に西部っ子ニュースや NIE ノートなど、直接子ども達と文章を通して交流できたことで、変化が手に取るようにわかりました。また、授業を見ながらわからないことを教えたり、休み時間に触れ合ったりと様々に関わりをもてたことは、かけがえのない思い出です。

これからも少し離れたところから学校の様子を見ることになります。１５０周年に向けて大きく飛躍されることを心から願っています☆彡大変お世話になりました！

読書をがんばりました！！

3/18 現在ですが、７５％以上の児童にせんだん賞を渡しました。21 年が 29％、22 年が 44％の数字からすると大幅アップです☆彡

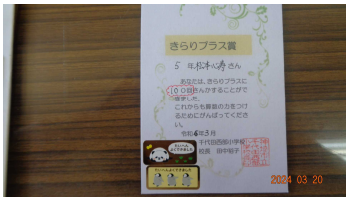
また、一人当たりの貸出冊数も

22 年度　２６０冊

23 年度　２９５冊

と、こちらも大幅増となりました。

子ども達の頑張りが素晴らしかったです！！



光武先生や梅﨑先生と共に地道に続けたきらりプラス。3 年間で１００回達成してくれました。5 年生の松本さん！

頑張りましたね！！

校長の独り言

下記は3月役職定年を迎える校長が寄稿する校長会報に寄せた拙文です。

思えば、よく校長室のドアだけでなく、どこの学校でも窓越しからも子ども達が声をかけてくれました。もちろん、職員室からも先生方が何かと相談ごとに来てくれました。最初は緊張していたのですが、段々慣れてくると無いと寂しいと感じるようになりました。

学校評価で、「校長室がこれからも気軽に行ける場所であってほしい」との声をいただき、思いが通じているのだと嬉しく思いました。無論、ある程度敷居が高い場所であるべきではとの意見もあるでしょう。しかし、色を付けることなく情報を得ずして正しい判断はできません。自分の判断で学校の命運が決まるとなると、このような方法を取ることが自分としては結果としてよかったのだと今は思っています。

いよいよ校長職を終える今、教頭時代に出会ったG先生にお守りいただいたことを心から感じています。赴任した学校の教務主任であり、以前ご一緒していた大先輩でした。安心したのも束の間、四月末には入院そしてそのままご退職。大病でしたが、きっと治すから、それまで頑張ってと叱咤激励されながら日々を過ごしていきました。

しかし、病には勝てず数年後に鬼籍に入られました。弔辞を読ませていただいたのですが、泣きながらしか言えなかったのに、ご主人や三人のお嬢様からお礼を言われたことなど、心の中にずっとその存在があります。

今でもG先生の明るい声と笑顔が私を励ましてくれます。「田中ちゃんなら大丈夫！」その声が弱っている自分を前に向かわせてくれたことは数えきれません…

教職を終える今、私は誰かにそんな声をかけられたのでしょうか… まだまだと聞こえてきます。もう少し、誰かの背中を押すお手伝いができれば幸いです。G先生、一緒に伴走をお願いします！

辞任式前夜記

校長室のドアを開ける

神埼市立千代田西部小学校
田中裕子

七年前の四月。赴任校に到着し、そっと入った校長室。一人の部屋の空気は初任の私にはまだよそよそしく、不安な気持ちで校長室の椅子に座りました。自分の所在なさを見透かすように陽光が差し込み、広い校長室をその光で包んでくれました。椅子に座ると、視界に校長室入口のドアが入って来ました。半開きだったそのドアは、自分の心と同じように揺れているように見えました。ドアに触れ、自分の心と向き合いました。思えばこれが校長としての最初の決断でした。

―校長室のドアを開放する―

この瞬間から退職するその日まで常に校長室のドアは外に向かって開かれることになりました。同時に、校長室にいても学校の気配を感じ取れる窓にもなってくれました。

校長室にいると、ドアの外を通る足音、話声から学校の息づかいが感じられます。ざわめきの中には無意識に感情がにじみ出てくるもので、学校の状況を的確に自分の目と耳で把握することにつながります。緊急性の高い事案が発生し、報告のために飛び込んでくる様子から即座に対応することもできます。また、子供から大人まで様々な人が気軽に訪れてくれました。開放されたドアは、何時でも誰かのために校長室があることを示してくれたように思っています。

一人で熟考するためにいただいた校長室でしたが、どうやら様々な人の思いが交錯する場となっていたようです。教職生活を終えようとする今、子供たちとの触れ合いや先生方との語らい、保護者の方との相談等々、その時々の場面が笑顔と共に蘇ります。

ついに、校長室のドアを閉じる時がきました。

教頭初任の時に、命を賭して応援してくださった亡きG先生はじめ、多くの先輩方の教え導きがあっての今だと心から思います。そして、これまで出会った先生方、子供たち、保護者・地域の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当に有難うございました。